# 令和４年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 大砂土東小学校 ）　学校番号　０５６　【様式】

| | |
|---|---|
| 目指す学校像 | 「心ゆたかに　かしこく　たくましく」の具現化をめざし、明るく、活気に満ち、「凡事徹底」を重んじる学校<br>安心・安全な潤いのある学校、地域とともに歩む信頼される学校づくりを推進する |

| | |
|---|---|
| 重点目標 | １　学びの自律化に向けた「主体的・対話的で深い学び」の実現<br>２　豊かな感性や人間性をはぐくみ、安心・安全な学校教育の推進<br>３　学校・家庭・地域が目標やビジョンを共有するコミュニティスクール<br>４　一人ひとりの多様な幸せ（Well-being）に対応した教職員研修の充実 |

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 達成度 | | | |
|---|---|---|---|
| | A | ほぼ達成 | （８割以上） |
| | B | 概ね達成 | （６割以上） |
| | C | 変化の兆し | （４割以上） |
| | D | 不十分 | （４割未満） |

| 学校自己評価 | | | | | | | | 学校運営協議会による評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度目標 | | | | | 年度評価 | | | 実施日令和５年２月１７日 |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 |
| 1 | ＜現状＞<br>○昨年度の全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。<br>○日頃の学習の様子から、タブレット等で調べたことをまとめ、整理して友達に対してプレゼンすることに意欲的に取り組む児童が多い。<br>＜課題＞<br>○全国学力・学習状況調査の結果分析から、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の肯定的な回答の割合が年々高くなっているが、市平均と比べるとやや低い。<br>○令和３年度学力向上ポートフォリオ「国語・算数の勉強は好き」の肯定的回答を向上させることが課題である。 | ・学びの自律化に向けたアクティブラーニングの推進 | ①全国及び市の学習状況調査結果を基に、「話し合う活動」に関する状況を分析し、市教委による学力向上カウンセリング研修を受けることで、効果的な手立てを設定する。<br>②全学年が最低１回の研究授業を行い、アクティブラーニングの視点について研究協議を行う。 | ①調査結果の分析結果や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、具体的な手立てを設定することができたか。また、よい授業アンケートの因子④を平均、１７以上にする。<br>②学校評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が９０％以上となったか。 | ①調査結果を校内研修で共有し、各部会で課題と方策について分析をし、具体的な手立てを設定することができた。よい授業アンケートの因子④は、全教員が自己評価シートに明記し、平均１７以上であった。<br>②「授業の内容をわかっていますか」の項目は 97%であった。また、「勉強をわかりやすく教えている」の項目も 97%であった。 | B | ①算数では、割合の正答人数の割合が低く、複数の数量関係を正確に把握できないことが課題である。基準量と比較量の関係を図や式を用いて整理しながら捉えられるようにする。<br>②「主体的・対話的で深い学び」の実現が課題である。今後も基礎学力の定着と個別最適な学びを継続する。 | ・教員１人に対する子どもの数が多すぎる。教員のできる範囲を超えている。教員が指導できる限界を超えているのではないか。中学・高校と違い、一人ひとりの理解度に差がありすぎる中、個々に対応していくには、教員の数を増やすべきである。低学年は１学級２５人にしてはどうか。家庭・地域の協力が必要である。<br>・学校評価の設問５（友達とのかかわり）については、学年を追うごとに肯定的な評価が増加しているのがすばらしい。学校での指導のおかげと考えている |
| | | ・主体的・対話的で深い学びの実現 | ①授業規律の徹底、学習に取り組む意識向上、学習の習慣化を図ることで基盤となる学力の着実な定着を図る。<br>②教員が児童一人ひとりの特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等を柔軟に提供・設定し、児童一人ひとりの関心・意欲を高めていく。 | ①学校評価に係る児童アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が９０％以上となったか。<br>②学校評価に係る児童アンケート及び教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が９０％以上となったか。 | ①「授業の内容を理解できていますか」の項目は 95%であった。「勉強をわかりやすく教えてくれますか」の項目は 97%であった。<br>②「関心を学びに昇華させる幅広い教科横断的な知識と視野をもつ教職員」の項目は、97%であった。「主体的・対話的で深い学び」の項目は、93%であった。 | B | ①次年度は更なる「個別最適な学び」の実現が課題となる。ICT を効果的に活用する研修会を充実させる。<br>②子どもたちの多様性とそのニーズに応えきれていない現状があるので、習熟度に応じた課題の設定、SC.SSW.さわやか相談員と連携を強化する。 | |
| 2 | ＜現状＞<br>○令和３年度の全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国を上回った。<br>○現在、生徒指導、教育相談、特別支援教育、アレルギー対応で配慮を要する児童がいる。組織で情報を共有するようにしている。<br>○報告・連絡・相談体制が整っており、事案に対して、早期発見・早期対応ができている。<br>＜課題＞<br>○教員のキャリアステージの構成がピラミッド型で、キャリアステージの浅い教員の育成が喫緊の課題である。<br>○危機意識に対して認識の差が見られる。充実した校内研修に加え、個に応じた指導を行う。 | ・児童一人ひとりへのニーズに応じた教育の実施 | ①積極的な生徒指導（主体的に学ぶ授業・あいさつ・黙々清掃等）を推進し、達成感や充実感を味わわせる。<br>②「心と生活のアンケート」等の結果を十分活用した教育活動を展開する。<br>③生徒指導・教育相談部会で、問題解決の手立てを講じる部会とする。 | ①学校評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が９０％以上となったか。<br>②学校評価に係る児童アンケート、保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が９０％以上となったか。 | ①「先生や友達、地域の人に自分からあいさつをしていますか」90%であった。「黙々清掃をしていますか」93%であった。<br>②「担任の先生は、悩み事や相談があるときには話を聞いてくれますか」96%であった。（保護者）「悩み事や相談があるとき話を聞いてくれますか」96%であった。（児童） | B | ①積極的な生徒指導に対し、教職員によって指導の差が見られるので、全教職員の意識の向上を図っていく。<br>②児童の悩みに真摯に向き合っているが、全児童の悩みが解決できていない。次年度は、研修等で教職員の更なるスキルアップを図っていく。 | ・本校の児童は元気がいい。挨拶をしても反応しない子もいる親の躾の問題ではないか。一方で、挨拶しなかった子が成人して遊びにくることもある。子どもによって個性がある。いつでも声をかける大人の存在が大事だと考える。<br>・周囲に信頼できる大人がいて安心感を持っているからこそ、元気に学校に通うことができている。子どものうちは表現に親の影響があるが、大人になると表現できる子も出てくると考える。安心感が伝わる場があり、信頼できる大人がいることを子どもたちに伝えていきたい。 |
| | | ・児童一人ひとりに応じた健康・安全指導の徹底 | ①食物アレルギーのある児童の状況把握を徹底し、安全な給食の提供に努める。<br>②「いのちの支え合い」を学ぶ教育実践を継続し、心の健康維持を図る。<br>③施設や設備の管理・点検を徹底し、自分の安全は自分で守る意識の高揚と安全指導の徹底・事故防止を図る。 | ①学校評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が９０％以上となったか。<br>②食物アレルギー及び施設や設備による事故防止となったか。<br>③学校評価に係る児童アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が９０％以上となったか。 | ①「児童一人ひとりに応じた健康・安全指導の徹底は達成できましたか」の項目は 100%であった。<br>②施設や設備による事故防止に向けて全教職員が取り組んだ。<br>③児童アンケート「正しい廊下歩行をしていますか」の項目は 90%であったが、廊下歩行は、今後の重点課題である。 | B | ①食物アレルギー対応について、年度初めに全教職員で周知徹底をし、危機感をもって取り組んでいく。<br>②施設や設備による事故防止に向け、安全点検の見直しを図っていく。<br>③低学年の廊下・階段歩行が課題である。引き続き、安全指導と全教職員で積極的な生徒指導を行っていく。 | |
| 3 | ＜現状＞<br>○今年度、学校運営協議会を立ち上げ、学校・家庭・地域が目標やビジョンを共有し、連携・協働していくことを確認した。<br>○保護者会、公開授業、学校行事等の機会を活用し、家庭、地域との相互理解を深め、信頼関係の構築を図っている。<br>＜課題＞<br>○学校運営協議会での熟議をとおして、目指す児童の姿を学校、家庭、地域で共有するだけでなく、児童一人ひとりが目指す児童像に迫れるようにしていくことが課題である。 | ・目指す児童像を家庭・地域で共有するための積極的な学校公開 | ①授業・行事等において、地域の人材、各種ボランティアや教育力を積極的に活用し、児童の実態を見ていただく機会を増やす。<br>②学校ＨＰに、学校運営協議会で熟議した内容を発信することで、目指す児童像を幅広く共有する。 | ①学校評価で、開かれた学校づくりの項目が９０％以上となったか。<br>②学校評価で、「目指す児童像に関心が高まった」と回答する割合を９０％以上となったか。 | ①ＰＴＡ活動、図書ボランティア、ソーイングボランティア、各学年の校外学習での補助等で児童の実態を見ていただいた。「開かれた学校づくり」は 97%であった。<br>②「目指す児童像に関心が高まった」の項目は 100%であった。学校運営協議会で「豊かな感性や人間性をはぐくむ」をテーマに熟議を重ねることができた。 | B | ①ウイズコロナで３年ぶりに行事等が実現できた。次年度は、前年度踏襲ではなく、より開かれた学校づくりを目指していく。<br>②学校運営協議会で熟議を重ねることはできたが、次年度は教職員の意識が課題である。勤務の割振りをしながら一人でも多くの参画を目指す。 | ・登下校安全パトロールで地域とのつながりがある。コロナ前は運動会、ボール入れ、お祭りをやっていたが、今は子どもとのつながりがなくなり、残念に思う。<br>・学校、地域、保護者の連携は重要と考える。自治会役員が高齢のため、密を避ける目的で夏のラジオ体操を学校でやることを検討したが、子どもが学校に行くときの見守りは誰がやるかという問題が生じて中止となった。運動会を行うことができず、当たり前にできることのありがたみを感じている。 |
| | | ・「砂東・５つのいっぱい」実現に向けたコミュニティスクール | ①コミュニティスクールで策定した計画に基づき、具体的な方策を定め、学校家庭・地域が協働した取組を始める。<br>②コミュニティスクールで本校の実態をなるべく多く参観していただく機会を設ける。 | ①学校評価で、「コミュニティスクールの一員として、目指す児童像を共有できた」と回答する割合が９０％以上となったか。<br>②学校評価で、「児童の成長に対する関心が高まった」と回答する割合が９０％以上となったか。 | ①学校運営協議会委員アンケート調査で、「コミュニティスクールの一員として、目指す児童像を共有できた」と肯定的な回答する割合が９０％以上でであった。<br>②学校運営協議会委員アンケート調査で、「児童の成長に対する関心が高まった」と回答する割合が９０％以上であった。 | B | ①年３回の学校運営協議会では、なかなか議論が進まないと考える。２か月に１回位の頻度で学校運営協議会を開催し、熟議を重ねていく。<br>②学校・家庭・地域が一同に集まってのイベントを計画し、協働する過程でお互いの信頼・理解が深まる。 | |
| 4 | ＜現状＞<br>○エバンジェリストを中心に、タブレットの効果的な活用を研修し、ハイブリット型の授業を実践してきた。<br>○全学年が年間で最低一回の研究樹豪を行い、自分の考えや思いをもち、進んで表現できる児童の育成を図ってきた。<br>＜課題＞<br>○教職員構成が二極化のため、指導に差が生じている。若手教員の育成が課題である。 | ・教職員一人ひとりが力を発揮し、子どもたち一人ひとりの多様な幸せ　（ Well-Being）を実現 | ①年間を通して、毎週、教職員の資質向上に関わる内容の校長だよりを発行する。<br>②全教員の自己評価シートに「アクティブラーニング」の視点を明記させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業を行う。<br>③全学年が年間で「主体的・対話的で深い学び」を実現するための研究授業を最低一本行う。 | ①全ての教員が自己評価シートに立てた今年度の目標向けて取り組み、８０％以上の教員が目標を達成できたか。<br>②「よい授業」のアンケート項目にある因子④（児童生徒の活動）が平均１７以上になったか。<br>③学校課題研修をとおして、自分の考えや思いをもち、進んで表現できる児童を育成できたか。 | ①全ての教員が教科指導、学年・学級経営、生徒指導、教育相談、校務等の達成率が、８０％以上となった。<br>②「よい授業」のアンケート項目にある因子④（児童生徒の活動）が平均１７以上になった。<br>③全学年が「主体的・対話的で深い学び」を実現するための研究授業を最低一本行った。学校評価では、肯定的な評価が９５％であった。 | B | ①教員の人数が多く、タブレットの効果的活用に差が見られる。研修をとおして、教員の指導力向上を図る。<br>②キャリアステージによって差が見られる。研修をとおして一人ひとりの一層のスキルアップを図っていく。<br>③各教科等における見方・考え方＋言語意識を働かせながら、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、自己内対話と他者との対話をはぐくんでいく。 | ・中学校でも年齢のばらつきはある。ベテランの良さ、生徒と年齢の近い若手の良さを生かしている。<br>・タブレットについては、スタディサプリを繰り返し利用するなど、有効に使っている。全ての教員が同じように使えなくてもよい。タブレットは１つの道具に過ぎず、それがメインではないと思っている。 |